

# プラハの歴史地区

## 世界遺産

をゆく

後藤 正治

「ことう・まさきはる」  
1946年京都市生まれ。  
著書に「ベラ・チャスラ  
屈者」など。

チェコの首都、プラハを何度か訪れてきたのは、女子体操選手、ベラ・チャスラフスカの取材のかかわりである。一九六四年東京オリンピックの個人総合優勝者、名花といわれたチャスラフスカの姿を記憶する人

は少なくないだろう。当時は社会主義圏の国だった。一九六八年、民主化運動「プラハの春」が巻き

年、ヒロード革命が起きた。チャスラフスカはチェコ・オリンピック委員会会長として復活するが、間もなく家庭の悲劇に見舞われ、いま精神を病んで、プラハの医療施設に入ってひっそりと暮らしている。

ツラフ像が見下ろすヴァー・ツラフ広場、古色蒼然（モウゼン）としたティーン教会…。プラハの名所は数多い。やがて私は、名所旧跡もさることながら、ただ旧市街地の石畳を歩くのが好きになった。足下から、コ

## 舗石は知っている

起る。「二千語宣言」と呼ばれる署名簿が発火点になったが、署名者の一人にチャスラフスカの名もあった。「春」はワルシャワ条約機構軍の戦車が押しつぶす。

志を変えなかった人々に長い冬が訪れた。署名を撤回しなかつた彼女も不遇の年月を送っていく。ベルリの壁が崩壊した一九八九

プラハ滞在中は旧市街のツコツといつかすかな響きが伝わってくる。

時止まらず、歳月は過ぎ行く。チェコ人でも、チャスラフスカの名を知らない若い世代が増えている。

は、ハプスブルク王朝の貴族、旧パーレンスティン家

の館であった。

東欧でもっとも美しいといわれるプラハ城、聖人像の戦車のキャタピラーを、

そしてヒロード革命のデモ

を踏み通っていたナチス

ドイツの軍靴を、ソ連軍

の戦車のキャタピラーを、

そしてヒロード革命のデモ

プラハの市街。手前はカレル橋



隊の足跡を。そのなかにいり組んだ石畳の道を幾度と一人の女性のことを。なく歩いた。  
（作家・神戸夙川学院大 舗石が知っている。そう思 学教授）  
いつ、街灯のともる、入  
おわり

